



アメダスを^{かんが}考え、^{かんり}管理している人は^{ひと}だれなの

気象庁^{きしょうちよう}で^{かんり}管理している

アメダスは、^{ちいききしょうかんそく}地域気象観測システムのことで、日本の^{けんきゆうしゃ}研究者によって^{かんが}考えられたものです。アメダスのための^{かんそくじよ}観測所は、日本全国で約1300か所あって、^{しよ}降水量を^{こうすいりよう}自動的に^{じどうてき}はかる^{きき}機器が^お置かれています。また、そのうちの840か所では、^{きおん}気温、^{うりよう}雨量、^{にっしょう}日照、^{ふうこう}風向、^{ふうそく}風速なども^{きろく}記録できる、^{じどうきしょうけい}自動気象計が^お置かれていて、1時間ごとに^{じかん}データ(^{じょうほう}情報)が^{きしょうちよう}気象庁へ^{おく}送られてきます。

また、^{ゆき}雪が多い^{おほ}所には、^{こうせつりよう}降雪量や^{せきせつ}積雪の^{ふか}深さを^{せきせつしんけい}はかる、^{やく}積雪深計が約120か所^{しよ}置かれています。アメダスを^{かんり}管理しているのは、^{きしょうちよう}気象庁です。

アメダスは^{てんきよほう}天気予報にかかせない

アメダスが^お置かれ、^{かんそく}観測が^{はじ}始まったのは、1974年^{ねん}からです。そのころは、アメダスから^{おく}送られてきた^{もと}データを^{ひと}基にして、^て人の手で^{うりよう}雨量の^{ぶんぶず}分布図が^{つく}つくりられていました。この^{ぶんぶず}分布図が、^{ひと}人の手で^てつくりられていたので、^{じかん}時間がかかりすぎて、^{しゅうちゅう}集中^うごう雨などの^{さいがい}災害の^まときには、^あ間に^あ合わないことがありました。現在では^{げんざい}コンピュータが^ず図をつくるので、^{すうぶんかん}数分間で、^{うりよう}雨量の^{ぶんぶず}分布図は^{でき}できてしまいます。

アメダスの^{えいぞう}映像を、^みテレビで^み見たことがあるでしょう。この^ず図は、^{しゅうちゅう}集中^うごう雨や^{たいふう}台風などの^{さいがい}災害の^まときにも、^{ぜんこく}全国の^{こうすいりよう}降水量が、^{すぐ}すぐに^{わかる}わかるように^{つく}つくりられています。

今ではアメダスは、^{いま}天気^{てんき}図をつくる^ずだけでなく、^{てんきよほう}天気予報にも^{かかせない}かかせないものになっています。(監修・村山 貢司)

